

令和元（平成31）年度北新ネット活動報告書

月 日	内 容
5月9日 ～10日	○第11回2019年度日本自治創造学会研究大会 場所：東京都 明治大学アカデミーホール（小原敏道、阿部眞希男参加） 内容 ・ 理事長講演「自立へのシナリオを語る」 理事長：穂坂邦夫 ・ 講演「真の地方創生と地方自治」 早稲田大学公共経営大学院教授 片山善博 ・ 事例発表 「地域ビジネスを成功させる知恵と実践」 ㈱MAKOTO代表取締役 竹井智宏 「地方はチャンス～1粒1000円のライチの奇跡～」 ㈱こゆ地域づくり推進機構代表理事 齋藤潤一 「外国人対策」 湖南省長 谷畑英吾 ・ 講演「少子高齢化を乗り切る取り組み～ゆでガエルにならないために～」前農林水産大臣・衆議院議員 齋藤健 ・ 講演「SDGsと地域循環共生圏」 環境省総合環境政策統括官 中井徳太郎 ・ 講演「日本の課題と可能性」 OECD東京センター所長 村上由美子 ・ 講演「スポーツが持つ力と地域活性化」 スポーツ庁審議官 藤江陽子 ・ 講演「日本が売られる～自治体は最後の砦～」 国際ジャーナリスト 堤未果 ・ パネルディスカッション「新時代到来！～地方はどう生き残るか～」 問題提起 東京大学大学院法学政治学研究科教授 金井利之 パネリスト 明治大学政治経済学部教授 牛山久仁彦 慶応義塾大学経済学部教授 土居丈朗 首都大学東京人文科学研究科教授 山下祐介 コーディネーター NPO法人地方自立政策研究所理事長 穂坂邦夫

8月1日
～2日

○全国地方議会サミット2019～チーム議会が地域をよりよくする～

場所：東京ビッグサイト7階国際会議場（小原敏道、阿部眞希男、小田島徳幸のみ1日めのみの参加）

内容

- ・講演「なぜ今“チーム議会”が必要なのか」
早稲田大学名誉教授 北川正恭
- ・パネルディスカッション「NHK地方議員2万人アンケートのホンネ」
山梨学院大学教授 江藤俊昭
NHK報道局選挙プロジェクト副部長 杉田淳
NHK報道局選挙プロジェクト記者 久保隆
- ・パネルディスカッション「チーム議会に職員だからできること」
大津市議会局次長 清水克士
北上市議会事務局議事課長 小原昌江
取手市議会事務局次長 岩崎弘宣
羽村市議会事務局長 小林宏子
- ・先進事例紹介「AI・ICTで議会の未来を切り拓く（その1）」
㈱メディアトウsmart書記事業部長 松田崇義
- ・講演「チーム議会の視点から見る議会・議員の役割」
早稲田大学教授 片山善博
- ・先進事例報告「チーム議会の実践と課題」
月刊「カハナス」編集長 千葉茂明
芽室町議会議長 早苗豊
四日市市議会議長 諸岡覚
岩倉市議会議長 梅村 均
- ・パネルディスカッション「チーム議会の視点から首長との関係を考える」
早稲田大学名誉教授 北川正恭
湖南市長 谷畑英吾
川西市長 越田謙治郎
京田辺市長 上村崇
- ・先進事例報告「チーム議会の視点から選挙のあり方を考える」
早稲田大学マニフェスト研究所事務局長 中村健
公明党岡山市議団 則武宣弘、中原淑子、林敏宏
- ・先進事例紹介「AI・ICTで議会の未来を切り拓く（その2）」
東京インタープレイ㈱代表取締役 米田英輝
- ・パネルディスカッション「チーム議会の視点から市民との関係を考える」
青森中央学院大学准教授 佐藤淳
飯綱町議会議員、元飯綱町議会政策サポーター 滝野良枝

	新城市議会議員、元新城市若者議会議長 竹下修平 牧之原市市民ファシリテーター 原口佐知子 可見市議会高校生議会 現立命館大学3年 田口裕斗 ・パネルディスカッション「国会は地方議会をどう見ているか」 法政大学教授 廣瀬克哉 衆議院議員 元地方創生担当大臣 石破茂 衆議院議員 元ニセコ町長 逢坂誠二 公明党衆議院議員 党地方議会局長 稲津久 ・総括 早稲田大学名誉教授 北川正恭
10月30日 ～31日	第14回全国市議会議長会研究フォーラムin高知 場所：高知市 高知ちばさんセンター（小原敏道、武田勝、小田島徳幸）※阿部眞希男は公費出張のため、政務活動費使用額無 内容 ・基調講演「現代政治のマトリクスリーパラル保守という可能性」 東京工業大学パラルアーツ研究教育院教授 中島岳志 ・パネルディスカッション「議会活性化のための船中八策」 コーディネーター 朝日新聞論説委員 坪井ゆづる パネリスト 市町村職員中央委研修所学長 高部正男 (株)コラボラボ代表取締役 横田響子 高松丸亀町商店街振興組合理事長 古川康造 高知市議会議長 田鍋剛 ・課題討議「議会活性化のための船中八策」 コーディネーター 朝日新聞論説委員 坪井ゆづる 事例報告者 上越市議会議員 滝沢一成 鎌倉市議会議長 久坂くにえ 周南市議会議長 小林雄二

令和 元年 5月会派研修報告書

日 時 令和 元年 5月 9日(木)～5月10日(金)

場 所 明治大学アカデミーコモン棟3階(東京都千代田区神田)

研修 内容 第11回日本自治創造学会研究大会

《1日目》

講演	自立へのシナリオを語る	講師	穂坂 邦夫 氏
講演	真の地方創生と地方自治	講師	片山 善博 氏
講演	事例発表 ①地方ビジネスを成功させる知恵と実践	講師	竹井 智弘 氏
	②地方はチャンス 一粒1000円のライチの奇跡	講師	齊藤 潤一 氏
	③外国人対策	講師	谷畑 英吾 氏
講演	少子高齢化を乗り切る取り組み	講師	齊藤 健 氏

《2日目》

講演	SDGSと地域循環共生圏	講師	中井 徳太郎 氏
講演	日本の課題と可能性	講師	村上 由美子 氏
講演	スポーツが持つ力と地域活性化	講師	藤江 陽子 氏

参 加 者 小原 敏道 阿部 眞希男

報 告 者 小原 敏道

【所 感】

*自立へのシナリオを語る 講師 穂坂 邦夫 氏

・講師先生は、自治体の自立を必要とする社会環境の変化、要因には①都市一極集中の加速と地方における過疎化の進行、②国家財政の悪化、医療・福祉の増大、税収の構造的減少による地方在世への影響、③一律的な広域行政圏の設置促進や市町村合併の再来「平成の大合併の功罪と基礎的自治体の意義」の方向性の誤りは自治体の危機につながると話していた。感じるものがあった。14歳～60歳までの生産労働人口が減ってきている(7千万人)。役所だけが残って住民がいなくなる。また、大都会も高齢者が増えるとサービスの良い自治体に移る。との話に共感するところもある。元気で魅力的自治体の再生には、徹底した情報開示と住民への理解促進に努め、住民への理解と住民参加の実現を目指す「検討委員会の設置による全体事業の解剖・住民説明会の開催と住民の行政参加・行政パートナー(有償ボランティア)の登用が必要と力説していた。また行政と議会の役割を再確認するとも話していた。話の中で、地方自治は「政党が仕切るものではない」、という言葉が一番印象的であった。

*真の地方創生と地方自治 講師 片山 善博 氏

・地方創生とは何か、国のこれまでの地方政策を振り返ると殆どの自治体がプレミアム商品券を実地した。GDPを上げるための政策であったが、本当にその地域に効果のある物につかうべきであったが、果たして効果のある方法と言えるのかと話していたことに、私も同感の考えでありました。北上市も国からの補助金で事業に取り組んだが、ただの消費税の補填の気がし疑問であり地域の自治力を点検する必要があると感じた。また、講師先生は、自治体戦略2040構想研究会の報告書を真剣に読み解くべきで、権益構想は本当に得か真剣に考えるべきと話されていた。

- ・地域本位に考える力と免疫力、真の地方創生と地方議会への期待としては、議会は決める前に市民の意見を聞くことを大事にしてほしい。市民に議会報告会はやらないよりはやった方がよいが、議会は議決をするところであり意味をなさない。その事よりも議決前に市民の意見を聞くことを大事にしてほしいという言葉に、議会報告会についても色々な考え方もある事に気づかされた。

*地域ビジネスを成功させる知恵と実践

講師 竹井 智弘 氏

- ・講師先生は2011年7月にMAKOTOを設立し、東北の起業家・経営者の支援を開始した。日本初の再チャレンジ特化型ファンド「福活ファンド」を組成。また、東北のスタートアップに投資する「ステージアップファンド」を形成し、投資育成活動を展開。起業環境作りにも力を入れ、仙台市と「東北グロースアクセラレーター」、JPモルガンと[tohoku rebuilders]など育成プログラムを実施。東北大学の起業家育成にも取り組んでいる人であった。その様な中で人が幸せに生きられる社会をつくる「強い事業を作って・弱い人を守る」をモットーにスタッフ25名で事業の運営をし、すべては100年後の未来を見据えて行っていると話していた。引き寄せられることがあった。

*地方はチャンス〜一粒1000円のライチの奇跡

講師 齊藤 潤一 氏

- ・講師先生はシリコンバレーのITベンチャー勤務し東日本大震災をきっかけに「ビジネスで地域課題を解決する」ことを指名に活動を開始しNPO法人設立。全国で地域の人材育成に従事、2017年4月に地域商社「こゆ財団」の代表に就任し、2018年12月まち・ひと・しごと創生会議で国の優良事業に選定され、総理大臣官邸で事例発表をしていた。糖度15度以上、1粒50グラム以上のライチをブランド化し空港や百貨店で販売、全国テレビ放送やNHKで特集され売り上げが増加し、全国からの視察訪問団が殺到していると言う事でした。私たち会派でも視察をして現状を確認し、地域の賑わいについて勉強したいと感じた。
- ・町への愛や誇りが壊れ(シビックプライド)、全国でシャッター通りや耕作放棄地が増え、今後なくなる自治体が896のまちが消えると予想されていた。これには驚いた。

*外国人対策

講師 谷畑 英吾 氏

- ・講師先生は滋賀県湖南市長で外国人集住自治体における多文化共生社会の構築から、湖南市の外国人政策とその取り組みについての紹介があった。湖南市は平成2年以降、徐々に増えた外国籍市民の、市民に占める割合が平成15年に5%を超え、課題が顕在化しリーマンショックを受けて平成21年にはいったん激減するも、現在は外国籍市民割合が5.4%まで回復、そのうちの6割が南米系外国人、最近は東南アジア系が急増中で多国籍化が進んでいるのが現状であると話されていた。
- ・平成17年に「外国人対策関係課長会議」の設置し、「外国人相談窓口」を設置した。市議会での課題認識についての質問があり、当時の教育現場の実態、市民生活への影響を調査したとの紹介があった。平成18年には「湖南市多文化共生社会推進本部」の設置、19年には「日本語初期指導教室」の設置、平成20年には「外国人市民会議」の設置など、国内においては外国人対応の先進市であると感じた。

*少子高齢化を乗り切る取り組み

講師 齊藤 健 氏

- ・講師先生は前農林水産大臣で、人口減少時代が進んで1年で40万人の人口減になると予想され、農業にとって、口が減ることは深刻な問題であると話されていた。
- ・新鮮で無農薬で特徴のある農産物は売れる。また、自治体は自分の経済状況がどのくらいになっているかを的確に判断して、予算を立てなければならないと話していた。職員がNPOに入って勉強すべきであり、そうする事で地域を考えることにつながるとも話されていて、同調するものがあった。
- ・農政改革についての話が聞けて、今後の議員活動に生かしていく為、最近の農業情勢を知ることができ大変参考になる講演であった。

*SDGSと地域循環共生圏

講師 中井 徳太郎 氏

- ・人類が豊かに生存し続ける為の基盤となる地球環境は、限界に達している面もあると指摘していた。その様な中、「このままでは世界が立ち行かない」という国際社会の強い危機感も背景に、2015年9月国連持続可能

な開発サミットで「持続可能な開発目標（SDGs）」が採択されたとの事であった。世界を変えるための17の目標があり、あまり聞けないことがこの講演で知ることができた。

- ・木質バイオマス資源の活用や温泉を生かした取り組み等、地域の再生可能エネルギーの活用等により、都市と農山漁村の交流・連携で地域活性化を図ることも考えられることが参考になった。

***日本の課題と可能性**

講師 村上 由美子 氏

- ・テクノロジーが職場を変えている。》自動化により仕事はリスクにさらされている。市場は世界的に統合されている》新しい形態の職場が増え2極化になりつつある。高齢化が進行中》これは世界的傾向になりつつある。日本の生活水準と生産性は世界水準を下回っている。韓国は今後急速に高齢化になり、50年後には日本と変わりなくなる可能性がある。などの話を聞き、早急に対策等を考えなければならないと感じた。
- ・対策の一つとして、働き方の中で男女格差をなくすだけで国内生産量がアップすると聞かされ、考えされた。また、学習や教育の面で、外国では自分で学びたいことを自分で考え学び縛りを緩くしているのに日本では、詰め込み学習であることに、どの方法がベストなのかも考えさせられた。

***スポーツが持つ力と地域活性化**

講師 藤江 陽子 氏

- ・スポーツ庁審議官である講師先生からは、2017年～2022年度までの第二期スポーツ基本計画を聞くことができた。その中で4つの指針、国民がスポーツで「人生が変わる」「社会を変える」「世界とつながる」「未来を作る」を聞き、関心を持って聞くことができた。数値目標に訪問外国人138万人～250万人に上げ、関連消費額を2204億円～3800億円に持っていきたいと話されていた。地域活性化におけるスポーツの力、地域への社会的効果（合宿の誘致・町のPR）、地域への経済効果（宿泊・観光）の為に、プロモーションビデオの政策が有効的であることを聞かされ、北上市のプロモーションビデオをたくさん作成することがいい方法と感じた。
- *総じて今回の研修は現在の世の中の流れを知ることができ、研修を基に今後の議員活動の参考にし、議会活動の活性化につなげたいと強く感じた。機会があればまた参加したいと感じた。

視 察 ・ 研 修 等 報 告 書

令和 元年 5月 16日

北上市議会議長 様

北上市議会(会派) 北新ネット

議 員 阿部 眞希男

私(会派)が参加した次の 視察 ・ 研修 について次のとおり報告します。

期間(期日)	令和元年5月9日(木)から5月10日(金)まで
視察先 視察内容 または 研修事項	日本自治創造学会第11回研究大会 新時代到来！ ～地方はどう生き残るか～

〔 所 感 〕

第1日
13:00～ 穂坂邦夫 日本自治創造学会 理事長
2020年東京オリンピック後に日本には人口減・財政悪化の問題が控えている。交付税に頼らない地方自治体制づくりが求められる。地方自治は政党が運営すべきではない。いざとなれば、首長より議会が強い。議会の過半数が全てを決定する。住民に対し、議会・議員がどのように責務を果たすかということ。つまりは議員個々の覚悟が問われる時代になる。
13:40～ 片山善博 元総務大臣
平成の大合併は行政効率を求めなされたが、地域百年の計に基づいたものではなく、地域創生総合戦略も5年経過したが成果はみられず、本質的課題解決になっていない。議会は総合戦略にいかになどだけ関与しえたか？国は地域のことを真剣に考えているのか？地域のことは住民と議会が真剣に地道に考え決めていくしかない。国の施策・補助金に寄りかかっているだけでは議会としての責任を果たしてい

ない。議会の使命は議案を決めること、決めたら責任を持つこと、決めるために市民の意見を聞くこと。
議員としての自覚を改めて考えさせられた。
15:00～ 事例発表
「地域ビジネスを成功させる知恵と実践」 竹井智宏 ㈱MAKOTO代表取締役
震災後に思いあって独立起業し、独自の視点で起業家支援を開始した熱意と独自に作り出したファンドの
バージョンの多様性には感心する。中でも、学生・大学への企業支援や、失敗した人への再チャレンジの
ファンドはすばらしい。
「地方はチャンス～1粒1000円のライチの奇跡～」齋藤潤一(財)こゆ地域づくり推進機構(宮崎県新宮町)
この組織は町の若手職員の熱意により、観光協会を発展解消して作られ3年目をむかえた。齋藤氏も又
震災をきっかけにビジネスで地域課題を解決する活動を開始。「笑顔とお金・地域には両方必要」「小さい
ことは美しい一人間中心の地域づくり」「計画的に早くたくさん失敗することが大きな成功を生む」発見(課
題の発見)磨く(ビジネス構築)発信する(稼ぐ)儲けは投資(人材、ブランド化etc)
役場(行政)とのパートナーシップが最高にかみあっている。特産品のブランド化のスピードが早く、ふるさ
と納税が3年で5倍。商店街の活性化に定期朝市開催(2周年)、地域おこし協力隊事業をフル活用した
人材育成と移住者の増加。できれば視察に行ってみたい。
「外国人対策」 谷畑英吾 湖南市長
湖南市は人口5.5万人弱であるが内陸型の工業が盛んな町。誘致企業が40社以上で北上に似た面が
多い。H15年ごろより外国籍市民が5%を越え、ことば、教育、文化、住民との交流など問題課題が顕在化
した。国や県にまかせられないことが多くあり、これからの北上に大いに参考にすべき。
16:50～ 齋藤健 前農林水産大臣
農業の可能性は内需型から輸出産業化へという考えは非常に魅力に満ちてはいるが、根本的に食料
安全保障とか全体の従業者減少の進展の中でどうとらえるのか漁業林業も含めて、もっと掘り下げた
論点の考え方がなかったのは残念であった。ビジネスと考えるとまだまだ努力すべき点が多いのは理解
できる。

第2日

9:30～ 中井徳太郎 環境省総合環境政策統括官

人類が地球の生態系の中で、人口増加をここまで拡大し、自然環境をも変貌させ更に産業革命以来の工業の進展による炭素エネルギーの消費の爆発的進展による各種の環境悪化を招いている現在、経済のグローバル化が一方ではとどまるところを知らず発展する中、果たしてSDGsやCOP23が本当に機能し環境悪化を食い止め、人類の幸福に結びつくのか疑問を感じる。私自身でさえ50年前の生活レベルと現在のレベルとではエネルギーの消費だけ見ても相当変わったし、世界中どの地域でも変わっているはずだし、後進国は今後その変化は大きくなると思われる。

10:20～ 村上由美子 OECD東京センター所長

少子高齢化は世界のメガトレンドであり、日本は10～20年先行しているだけ。ある意味大きなビジネスチャンスに恵まれている。若年層の失業率は群を抜いて低く、教育水準はトップレベルで子供から老人まで読解力と数的思考力もトップ、女性が男性並みに仕事につければそれだけでGDPは増大する。日本の課題はイノベーションを起こす「力」が弱いこと。共同作業の能力は高いのに、他部門、他業間との横軸を通す力に欠けている。ゆるやかに方向性を示すリーダーシップが必要である。子ども・学生に自己に自信を持ち大志を持つものが世界的にみれば極端に少ない。

11:00～ 藤江陽子 スポーツ庁審議官

スポーツ振興は人生をより豊かにし、社会を変え、世界とよりよくつながり、よりよい未来を作る。地域づくりにおいても持続可能なまちづくりにつながり、文化・観光ともしっかり連携すべき。まさに今北上市でも取り組みを進めている課題と一致している。

13:00～ 堤 未果 国際ジャーナリスト

現在のグローバリズム進展への警鐘としてとらえた。クリントン氏と候補者争いをしたサンダース氏の言とていわれた「かつてのアメリカは合衆国というように地方主権の国であったが今はアメリカ株式会社となっている。政治もグローバル産業の傘下にある」政治はローリスク・ハイリターンの投資対象である。多様性より均一化、農業も起業化しグローバル企業の傘下にある。食糧も世界支配の道具のひとつであり、イラク戦争の目的の一つは農業支配にあった。グローバル化を阻止する力は地域の自治にある。100年後幸福に暮らすために地域の自立・地方自治が命運を握っている。

13:40～ パネルディスカッション

時間の制約もあったろうが、論点・視点がバラバラで、まとまりに欠けた感があった。

○金井 利之 東京大学大学院法学政治学研究科教授

地方創生は失敗した。東京一極集中是正も人口1億人維持も不可能。氏の言う「生き残る」という問題

設定は生き残る側の自信・慢心・過信の産物で、地域間・自治体間の競争を招いただけ。

○牛山久仁彦 明治大学政治経済学部教授

真に地域住民のニーズにこたえる自治体づくり、地方自治改革が求められている。自治無き制度改革で

ない、力強い分権自治体創造が必要となる。市町村の総合戦略はそれぞれの実情に見合った戦略が

必要。戦略づくりに議会はどうかかわるのか。その具体策が聞きたかった。

○土居丈朗 慶応義塾大学経済学部教授

氏の専門は財政学であるが、専門外の話であったのに違和感があった。特定の薬品使用率、要介護

認定率、1人当たり介護費における地域差が出てくる原因は明らかにすべき。年金問題を取り上げて

ほしかった。

○山下 祐介 首都大学東京人文科学研究科教授

地方創生・総合戦略・2040構想 全て日本最大の課題である人口減少に対して効果が得られる政策形

成になっていない。人口問題は環境問題とも通じ、人間の都合で簡単には統制できない。グローバル競

争に勝ち抜くことだけに専心している政策としか思えない。グローバル化こそが自国だけでは解決できな

い問題である。内なる環境問題としての人口リスクという課題にどのように国家が有効に取り組めるか、

どの時点で出生率2.0以上を達成できるのか、できないのか？

令和元年 8月会派研修報告書

日 時 令和元年 8月 1日(木)～8月 2日(金)
場 所 東京ビックサイト(東京都江東区有明3丁目)

研修 内容 全国地方議会サミット2019チーム議会が地域をより良くする

《1日目》

講 演 なぜ今チーム議会が必要なのか

講師 北川 正恭 氏

パネルディスカッション NHK地方議員2万人アンケートのホンネ

講師 江藤 俊昭 氏

杉田 淳 氏

久保 隆 氏

パネルディスカッション チーム議会に職員だからできる事

講師 清水 克士 氏

小原 昌江 氏

岩崎 弘宜 氏

小林 宏子 氏

先進事例紹介 AI、ICTで議会の未来を切り拓く

講師 松田 崇義 氏

講 演 チーム議会の視点から見る議会・議員の役割

講師 片山 善博 氏

総 括

講師 北山 正恭 氏

《2日目》

先進事例報告 チーム議会の実践と課題

講師 千葉 茂明 氏

早苗 豊 氏

諸岡 覚 氏

梅村 均 氏

パネルディスカッション チーム議会の支店から首長との関係を考える

講師 北川 正恭 氏

谷畑 英吾 氏

越田 謙治郎 氏

上村 崇 氏

先進事例報告 チーム議会の視点から選挙の在り方考える

講師 中村 健 氏

則武 宣弘 氏

中原 淑子 氏

林 敏宏 氏

先進事例紹介 AI・ICTで議会の未来を切り拓く

講師 米田 英輝 氏

パネルディスカッション チーム議会の視点から市民との関係を考える

講師 佐藤 淳 氏

瀧野 良枝 氏

竹下 修平 氏

原口 佐知子 氏

田口 裕斗 氏

パネルディスカッション 国会は地方議会をどう見ているか

講師 石破 茂 氏

稲津 久 氏

逢坂 誠二 氏

参加者 小原 敏道 阿部 眞希男 小田島 徳幸
報告者 小原 敏道

＊今回の研修は多くの人の話、考えを聞けたので大変参考になった。我々議会の議事課長がパネルディスカッションに参加し、研修に参加者の皆さんに北上市議会の取り組みについて、活動報告していたのが大変心強かった。これからの議会は、チーム議会で活動して行かなければと感じた。しかし、講演の中でチーム議会になっていないから個人の活動になっている、先輩議員の信条が今も受け継がれていると話されていたので、考えされた。解決策を見つけることが難しいが、大事と感じた。

【所感】

＊ NHK地方議員2万人アンケートのホンネ 講師 江藤 俊昭 氏 他

- ・このパネルディスカッションの中で、議員になるきっかけは、「①実現したい政策がある。②友人、知人に頼まれたから。③家族が議員だから、」が最も多いことが分かったと話していた。また、都会は40代～50才代が多いが、市町村議員は60代～70才代が多いことが分かった。そして、立候補に当たり家族の理解を得ることが多いと話していた事は同感できた。
- ・議員になると「はめを外せない、風当たりが強い、時間が少ない」と考える議員も多い事が分かった。そして、議員を長く続けたいと思わない議員が、市町村議員に多い事も分かった。

＊ チーム議会に職員だからできる事 講師 清水 克士 氏 他

- ・職員は市民のために働くことが職業と思い、議員のために働くことに違和感を感じている人が多い。また、議員は職員を下克上に見ている議員もなだいる。(あごで使う)事務局同志での話を聞き考えられ、改善していかなければと深く感じた。
- ・取手市議会では、議事の審議に議会事務局が話を挟むことができる。また、墨田区では、議会事務局の提案権を条例に付け加えたと話していた。政策に議会事務局が意見を出すことはいかなるものかと思うが、チーム議会になるためには必要不可欠と感じた。どこまで議会改革が進むのか考えさせられた。

＊ チーム議会の視点から首長との関係を考える 講師 北川 正恭 氏 他

- ・市長の応援議員が一番文句を言う。マニフェストの評価についても厳しい追及をしてくるが、これは応援する市長に対し、激励をしていると感じている。(兵庫県川西市市長)
- 田辺市長は、市を二分する選挙であった、多様性の議員がいてもよい、その中で議員間討議が大事と思う、と話されていたことが印象的であった。
- ・市長の話の中で、政務活動費を議員研修に事務局を同行させ勉強することも大事と考えるので、利用できるようにしたいとの話が出され、前向きに考える市長もいることが分かった。私も改善したいと思う。

＊ 国会は地方議会をどう見ているのか 講師 石破 茂 氏 他

- ・人口が増えている時は政策も失敗をしても差し支えなかったが、人口減少時代に入っては、失敗は許されない。そして、どの様にして議会活動に住民を巻き込むか考えるべき。
- 地方議員は政治の原点と考えている。住民が議会にきてものを言ってもらふ事と、無関心の住民にものを言えるのは、地方議員であると考えていると話していた。面白い話で、北京で一羽のチョウが羽ばたけば、ニューヨークにハリケーンが起きると話していた。

＊四日市市では、議員の足の引っ張り合いがなくなり、逆に出した意見の反対意見を言う議会になった。それには、平成12年に一期生議員による新会派が結成され、さまざまな提案がなされたことが大きなきっかけになり、市政活性化議員懇談会の設置をしたことが事例として挙げられ、大変参考になった。

視 察 ・ 研 修 等 報 告 書

令和元年 8月 17 日

北上市議会議長 様

北上市議会(北新ネット)
阿部眞希男

次の 視 察 ・ 研 修 について結果を報告します。

期間(期日)	令和元年8月1日、2日
視察先 視察内容 または 研修事項	全国地方議会サミット(東京ビッグサイト国際会議場)
参加者	小原敏道、小田島徳幸、阿部眞希男

[内容及び所感]

所感
8/1 13:20~14:20 パネルディスカッション 「地方議員2万人アンケートの本音」 アンケート結果から見えてきた現実を率直に表している。報酬については、同じ議員ではあるが、国と県、県と市、中核市と小都市、市と町村間の格差が大きすぎると感ずる。特に町村議員は、低く、制度面でも格差が大きい。同等のアンケートでは推し量れない。
8/1 14:20~15:20 パネルディスカッション 「チーム議会に職員だからできること」 小原(北上市) 新たなことを実行すると業務は増えてきているが、タブレット導入での改善効果は大きい。議員はもっと使いこなせるようにすべき。議員の他の市における調査は事前に職員を通してほしい。
岩崎(取手市) 職員と議員がフランクに話せる。自由討議には職員も参加、議員も職員も目標は同じ、我々も、目指すべきである。
小林(羽村市) 事務局長2年目にして議長議員の理解のもと、多くの改善を進めている。職員も改革を理解し、やりがいのある職場づくりを目指している。過去に財団の解散を実現するなど、実力派職員であり、説得力も素晴らしい。
清水(大津市) 議長任期は4年が妥当、議長選も含めた人事については、検討課題が多いと感ずる。 質問の中で、墨田区議会条例では、委員会での職員の提案権が盛り込まれており、感心させられた。職員は議員のためではなく市民のために仕事するもの。
8・1 15:35~16:20 先進事例 「AI・ICTで議会の未来を切り拓く」 松田崇義((株)メディアドゥスマート書記事業部長) 徳島県庁における実証実験から本格導入へと進む過程にあることからして、有効な技術である。コスト面からも、検証の上からだが、議事録への対応が可能とすれば、早急に検討すべき。
8/1 26:20~17:20 「チーム議会の視点から見る議会・議員の役割」 片山善博 チーム議会とは、心をつなげて最大の効果を得るべく決定すること、企業にあっては取締役会、裁判における判事チームと類似している。議会が与野党対立状態では、チームたりえず。 条例は、住民の権利の制限、義務を課すもので、住民に発言機会を与えること、専門家の意見を聞く必要あり。予算は限られた財源が、本当にバランスよく配分されているかのチェックと、編成過程の公開が必要。議会は決定機関であり、決定には責任を持つ。教育問題が多発しているが、教育委員会は小中校の経営責任機関であり、委員を決定しているのは議会である。時代に対応する条例の棚卸の必要あり。チーム議会が機能するには事務局の専門家が似つ用である。もっとも。
8/2 9:30 「チーム議会の実践と課題」 早苗芽室町議会議長 改革度NO1の芽室町議会であるが、ここ20年議員選挙の投票率は最低を更新し続けており、

議長自身の最大の悩みである。今だに議会が何をしてるかわからない、議員はいなくてもよい、との声があり、議会に対する関心が希薄になってきている。改革は変えればよいのではなく、成果が求められている。我々の多くが、県議や国会議員に求めると同様に、地元は何を実現するのかを期待されているだけなのか？

諸岡四日市市議会議長

委員会、会派からの提案合戦のような気風があり、失敗を恐れず、どんどん具体化を進めている。若い人、高校生の意見を聞く機会を設けている。7人の新人が当選し、うち5人が30代2人を含む女性で、女性目線の改革が期待される。

梅村岩倉市議会議長

地域別の議会報告会を定例会の前に開き、予算審議に反映させてる。更にテーマ物の意見交換会を年に12回も開いている。おどろきです。モニター制の発展形であるサポーター制、行政視察の成果を踏まえての委員会代表質問の実施、条例に議長が事務局長を任命すると明記、議会基本条例の見直しが年度ごとの実施など参考にすべきことが大いにある。

8/2 10:30～11:40 「チーム議会の視点から首長との関係を考える」

谷畑湖南省市長

合議制の強さは議決したことを首長がずれずにシュクシュクト実行できているのかをチェックすることにある。局長は真のエースか？議長は拒否権を持っている。

越田川西市長

マニフェストづくりには、市民、住民と一緒に進めてきており、実行責任と共にプレッシャーが大い。議会からの多様な意見に基づく提案は、重要と考えている。

上村京田辺市長

職員は改革の仲間である。市民の意見を具現化するのには議会の役目。議員同士の議論がしっかりされているか？議会としての意思を表示しているか？

北川先生

事務局から議会局へ、もはや庶務主体ではない。

災害対策本部には議員を入れるべきではない。復興局面は議会が中止となること。BCPを早急に考えるべき。

This image shows a single sheet of white paper with horizontal blue or grey ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There is no handwriting or other markings on the paper.

行政視察報告書

令和元年8月26日

北上市議会議員 阿部 眞希男 様

北上市議会 北新ネット
小 原 敏 道
阿 部 眞希男
小田島 徳 幸

報告者 小田島 徳 幸

私が出席した次の「全国地方議会サミット 2019 チーム議会が地方をより良くする」について結果報告します。

視 察 期 間	令和 1 年 8 月 1 日 (木)
視察先及び調査事項	「全国地方議会サミット 2019 チーム議会が地域を良くする」

【調査内容及び所感】

所感

チーム議会について、なぜ今チーム議会が必要なのかについて、所感を述べます。

国会議員以外の市町村長や市町村議会議員は全て同じ地区住民により選挙され選出されます。また、同様に都道府県知事やその議会議員も選挙により選ばれます。

意味的には、同じ選挙区で、同じ市民による選挙でありながら、選ばれ方の違いがあるだけです。

当市を例とするならば、市長という一人を選ぶことと、議員という 26 人を選んでいく人は同じです。

私はこれを車の両輪として理解しておりました。そして、これでいいものだとしてとらえておりました。

従って、予算が出てからの審議は、特段の差異を感じない以上は、執行に協力すべきものと思っております。

しかし、もう一歩進んで、予算が発表されてから意見を言うのではなく、予算に入れ込む活動になればいいのではないか。

また、予算についても、いち早く市民に知らせた方が良くと思います。

市民からは、なんだあと言われるかもしれませんが、その間に市民の意見を聞けるからです。

そして、それは変更や、訂正など早めの対応をとることができるからである。

しかしながら、全てが、変更予算に繋がることは現実的ではなく、このためには、議員各位が、市長とは別に、26人の議員としての意見をまとめておく必要があります。

このまとまりがあれば、市の方向性について大きな意見となること間違いありません。

このことにより、チーム議会となる事に持って行きたい。

全国市議会議長会研究フォーラム

日 時 令和元年10月30日(水)～31日(木)

場 所 高知地ちばさんセンター

参 加 者 小原 敏道 阿部 眞希男 武田 勝 小田島 徳幸

報 告 者 小原 敏道

研修 内容

第1部＝基調講演「現代政治のマトリクス・リベラル保守という可能性」

第2部＝パネルディスカッション「議会活性化のための船中八策」

第4部＝課題討議「監視権をいかに行使すべきか」

【視察報告書】

＊基調講演の中で「中島 岳志氏（東京工業大学リベラルアーツ研究教育院教授）」が政治のマトリクス①配分をめぐる軸—Y軸（リスクの社会化VSリスクの個人化） ②価値をめぐる軸—X軸（リベラルVSパターナル）について話された。その中で、自民党の50年、希望の党はなぜ失敗したのか。また、GDPの中にどのような税金の使われ方をしているのかが重要であり、それによってリスクの個人化か社会化が分かると話され貴重な考えを聞くことができた。又、保守とは何かの中で我々は、普遍的な人間の本性としての伝統主義と、ひとつの特殊な歴史的、近代的現象としての保守主義とを区別する。生きるためには、伝統に一つの保守があるが、時代とともに少しずつ変えることが大事で、人間は間違いを起こす生き物であると話されていたことが印象的であった。

＊パネルディスカッション「議会活性化のための船中八策」では、坪井 ゆづる氏（朝日新聞論説委員）のコーディネーターで開催されました。坪井氏は、議会は地方政治、自治の主役である。議員はどこを見て議員になっているのか（地域、住民、政党）。予算や事業の採否などの最終決定権を握っているのは議会であり、地域の将来を左右する重大な使命を担っている。その分、責任は重い。すべての議決に当たって、公明正大で説明可能な判断を求められている。こうした議会像、議員像が今では常識であろう。だが、かつては違った、政府が首長に担わせた膨大な仕事に議会は口をはさめない仕組みだったので、議会は単なるわき役に過ぎなかった。議会の中には端役に過ぎないような人もいた。そんな時代の議員活動と言えば、地域の要望を行政につなぐ「口利き」が当たり前だった。議員がそれに励むことを、多くの住民も当然のように支持していた。変化の起点は、2000年の地方分権一括法だ。議会も自前で決断し行動しなければならなくなってきた。その様

な中で、全国各地で議会改革が繰り返し叫ばれて、議会基本条例をはじめ議会も進化を遂げた議会も出てきた。しかし、いまだに「自治の主役」にかけける議員が存在している。その様な議会は「議会不信」が根強くあるのは否定しがたい事実である。と話され、自分の議会活動を考えさせられ、自分を見直す機会になり大変貴重な話であった。

- ・付け加えて、EDPM（データー・20年後の住民を考えて行動しているのか）また、地域経営にはPDDDC Aサイクルを回していくべきであると話されていた。これは非常に重要な視点であり、人間行動、議会改革にも活用できると評価した。P＝計画案、提言 D＝討議 D＝決定 D＝実行 C＝監視、評価 A＝改善 と言う事である説明された。PDCAサイクルの活用は、知らず知らずのうちに行政的発想へと移動せざるを得ない。このことは、しっかりと留意していただきたい論点である。
 - ・議員はローカルリズムが強い（地域代表意識）、議会として①行政監視機能をどうやって高め、成果を上げていくか。②人口減少、外国人の増加、災害対応など、地域の将来を見据えた政策論議を進めるために必要な視点とは何か。③候補者男女均等法の下で、「老老男男」の実態をどう変えられるか。④規模の小さい議会で深刻化する「なり手不足問題」にどう対処するか。⑤住民の関心を高めるには、何をすべきか。こうした諸問題を、じっくり議員間で討議すべきとも話していた。この様な問題解決には、チーム議会の活動が大変重要と、改めて感じた。
- 高知市議会では、「チーム議会」を作るようにしている。その中では議員間討議を頻繁に開催して意見の集約を図るということが紹介された。

*課題討議「監視権をいかに行使すべきか」では、滝沢 一成氏（上越市議会議員）からは、市議を目指しやすい環境整備への提言についての事例発表。久坂 くにえ氏（鎌倉市議会議長）から、「女性議員の現状の視点」についての事例発表。小林 雄二氏（周南市議会議長）から、「議会改革の歩み」についてそれぞれ事例発表が行われた。

- ・坪井コーディネーターからは、八策のまとめとして、①議会としての行政監視機能を充実させることが大事である。②次世代のことを考えた、政策を考えるべき。③データーをしっかり踏まえた議論を、議員間で行うことが大事。④候補者男女均等法を踏まえ、女性議員の増員を含め、多様性を認めた議会を目指すことが大事になる。⑤96条を議会から仕掛ける。⑥労働法制の見直し（兼職の問題）を進め、議員のなり手解消に努める。⑦議会改革を進め、情報公開を徹底して行う。
- ・今回の全国市議会議長会に参加し、議員活動に主を置くのではなく、議会活動が重要とつくづく感じた。それにはやはり議員間討議とチーム議会の充実を目指して、研修を機にこれからの議会活動に生かしていきたい。

令和元年12月12日

北新ネット研修受講報告

日時 令和元年10月29日(火)～31(木)
研修会場 高知ちばさんセンター
研修名称 「第14回全国市議会議長会研究フォーラム」に参加研修
参加者 小原敏道 阿部真希男 小田島徳幸 武田 勝
報告者 武田 勝

日時 令和元年10月29日(火)
往路(移動) 花巻空港 9:20 ～ 14:05 高知空港
宿泊先 日航高知旭ロイヤルホテル

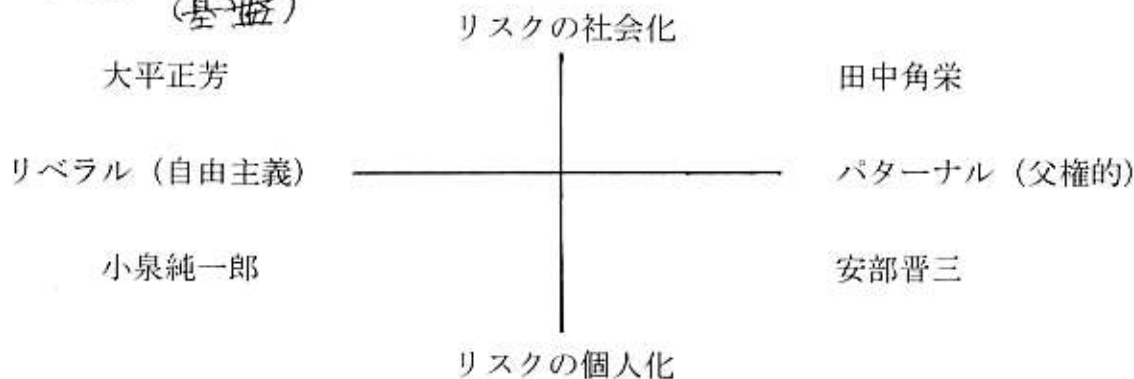
日時 令和元年10月30日(水) 13:00～17:00
研修会場 高知ちばさんセンター
研修内容

【 第1部 】

基調講演 中島岳志 氏 (東京工業大学リベラルアーツ研究教育院教授)

演 題 現代政治のマトリクス ― リベラル保守という可能性

1、政治のマトリクス (基盤)



2、ラディカルデモクラシーとポピュリズム

市民が直接政治に口を出す参加型民主主義と大衆迎合型政治

① 2017年10月の立憲民主党フィーバー

、「枝野立て」→「立憲民主党はあなたです」

2018年8月以降、支持率急落(12%→8%)

…立憲民主党の埋没(新たな物語の欠如) + 永田町の倫理(参議院での身内争い)

・自民党総裁選挙(2018年9月)

② 2019年のれいわ新選組フィーバー

3、リベラル（自由主義）の逆説

（社会の規律や習慣、権威などにとらわれないさま）

・「寛容」としてのリベラル

- ・リベラルの起源としての宗教戦争
- ・「異なる他者と如何に共生するか？」という問い
→個人の価値の領域には土足で踏み込まない
- ・「消極的自由」（～からの自由）と「積極的自由」（～への自由）
→自由のパラドックス（逆説）

4、保守とは何か？

- ・カール・マンハイム著『保守主義的思考』ちくま学芸文庫、1997年
- ・「伝統主義」（自然的保守主義）と「保守主義」（近代的保守主義）
・「われわれは、普遍的な人間の本姓としての伝統主義と、ひとつの特殊な歴史的・近代的現象としての保守主義とを区別する」

・エドモンド・パーク『フランス革命についての省察』

- ・フランス革命に反映された人間観への不信…「裸の理性」への懐疑
- ・懐疑主義的人間観

・過謬的存在としての人間（過謬：過誤、あやまち）

・「復古」「反動」「進歩」への懐疑…社会は完成しない

・漸進主義

→保守するための改革

・「ニーバーの祈り」

- ・「神よ、変えることのできるものについて、それを変えるだけの勇気をわれらに与えたまえ、変えることのできないものについては、それを受け入れるだけの冷静さを与えたまえ。そして、変えることができるものと、かえることのできないものとを、識別する知恵を与えたまえ」

・私たちの現在、膨大な過去の蓄積・知的財産の上に成立している

→「改革」とは、過去から相続した歴史的財産に対する永遠の微調整

・成文憲法の存在しないイギリスの立憲主義 → 死者の立憲主義

大平正芳、伊藤正義（リベラル保守）：政治は60点でなければならない

【 第2部 】

パネルディスカッション 【 議会活性化のための船中八策 】

○コーディネーター 坪井 ゆづる 氏（朝日新聞論説委員）

○パネリスト 高部 正男 氏（市町村職員中央研修所学長）

横田 響子 氏（株式会社コラボ代表取締役／お茶の水女子大学客員准教授）

古川 康造 氏 (高松丸亀町商店街振興組合理事長)
田鍋 剛 氏 (高知市議会議長)

「地方政治、自治の主役」にふさわしく 坪井 ゆづる 氏 (朝日新聞論説委員)

議会は地方政治、自治の主役である。

たとえ首長に比べて、スポットライトを浴びる機会はすくなくとも、予算や事業の採否などの最終決定権を握っているのは議会であり、地域の将来を左右する重大な使命を担っている。

当然、その分、責任は重い。すべての議決にあたって、公明正大で説明可能な判断を求められている。

こうした議会像、議員像は、いまでは常識だろう。すべての議員の共通認識になっていると思う。

だが、かつては違った。政府が首長に担わせた膨大な仕事に、議会は口を挟めない仕組みだったので、議会は単なる脇役にすぎなかった。議員のなかには端役にすぎないような人もいた。そんな時代の議員活動といえば、地域の要望を行政につなぐ「口利き」が当たり前だった。それに励むことを、多くの住民も当然のように支持していた。

あの分権一括法の施行から、まもなく20年になる。

この間、分権改革の流れのなか、全国各地で議会改革が繰り返し叫ばれてきた。そして、議会基本条例をはじめ、幾多の成果を残してきた。住民との距離を縮め、明らかに進化を遂げた議会もある。

しかし、いま、世論は実に厳しい。「いまだに『自治の主役』の自覚に欠ける議員が存在している」という「議会不信」が根強くあるのは否定しがたい事実ではないか。

全国津々浦々で、選挙のたびに過去最低の投票率が相次いでいるのも、議会に向けられた冷ややかな視線の表れに見える。

それならばこそ、こうした世論を踏まえつつ、このフォーラムを、活力があり、質の高い議会を実現していくための具体策を考える機会にしたいと考える。

1、市議会についての現状認識

○市議会改革への取り組みの広がり

議会基本条例制定 60.8% 議会報告会の開催 53.7%

○自治体議会について指摘されている問題点

- ① 投票率の低下 議会への無関心
- ② 無投票当選の増加 議員のなり手不足
- ③ 議員構成の偏り 女性、若者の参加が少ない
- ④ 政務活動費の不正使用等 議員の不祥事

2、議会の現状を認識して、議員同士が議論の上条例をまとめることの重要性

3、今後の自治体議会のあり方 多様な人材の市議会への参画促進に関する決議

日 時 令和元年10月31日(木) 9:00~11:30
研修会場 高知ちばさんセンター
研修内容 課題討議

帰路(移動) 高知空港 14:35 ~ 伊丹空港 ~ 18:05 花巻空港

【 研修の所感 】

今回の研修に参加して、市議会は地方政治、自治の主役である。それは、議会が予算や事業の採否などの最終決定権を握っているからである。

そして、市議会議員は、地域の将来を左右する重大な使命を担っていることを改めて認識しました。

行政視察報告書

令和元年 11 月 7 日

北上市議会議員 阿部 眞希男 様

北上市議会 北新ネット
小原 敏道
武田 勝
阿部 眞希男
小田島 徳幸

報告者 小田島 徳幸

私が出席した次の「第 14 回全国市議会議員会」について結果報告します。

視察期間	令和元年 10 月 30 日（水）～31 日（木）
視察先及び調査事項	「第 14 回全国市議会議員会」研究フォーラムin高知

【調査内容及び所感】

所感

基調講演で中島岳志氏（東京工業大学リベラルアーツ研究教育院教授）の講演を聴きました。

よく言われる大きな政府とか、小さな政府とは、国民負担を多くして頂くことで、手厚くサービスをする方法と低負担で国民に我慢をしてもらうことをグラフ化しての説明であった。

お金をかける、いわゆる税金を高く、サービスの充実を受けるやり方を「大きな政府」とある意味自己責任型となる「小さな政府」を縦軸にとり、横軸には、リベラルな考え方とパターナル（父権的）な考え方で政府がどの位置にいるかによって判断すること。

実質、口で言ってもお金の使い道により判断してゆく。

現在の国政を担っている自由民主党でも、時の総理大臣ではその立つ位置が違っており、自民党の結成当時から、所得倍増もあり大きな政府の状態であった。しかし、昨今は年間 100 兆円もの予算ではあるが、小さな

政府に向かっている。

また、野党が選挙政策を打ち出す場合には、同じような政策では対立にならないので、中島氏のグラフを引用すれば、対角線の政策をとるのが良い。

しかし、現自民党政治において、公明党が本来党是としている考えと対角線上の考え方なのに、連立政権を組んでいることに対して、普通では考えられないと言っていた。

年金について

議員の成りて不足については、選挙というハードルがあること及び保証のないことが、ネックになっている。

したがって、前回のような議員年金ではなく、議員も厚生年金にする方がいいのではないか。